令和　4　年　11　月　17　日

総務民生常任委員会
　委員長　中平　裕二　様

総務民生常任委員　　ひさなが　信也

総務民生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先
　令和４年11月８日（火）
　　岡山県勝田郡奈義町　「子育て支援施策について」

　　11月９日（水）
　　岡山県総社市　「障がい者雇用施策について」

2. 視察参加名簿
　委員長　　中平　裕二
　副委員長　　上田　啓二
　委員　　林　　哲也
　委員　　綾城　美佳
　委員　　江原　健二
　委員　　田中　千秋
　委員　　ひさなが信也
　　以上７名

3. 視察報告・所感　別紙

(別紙)

<table>
<tr><td>視察先</td><td colspan="4">岡山県勝田郡奈義町</td></tr>
<tr><td>視察日時</td><td colspan="4">令和４年 11 月８日　13：30～15：30</td></tr>
<tr><td>視察項目</td><td colspan="4">子育て支援施策について</td></tr>
<tr><td>対応部署名</td><td colspan="4">情報企画課</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自治体概要</td><td>面　　積</td><td>６９．５４㎢</td><td>人　　口</td><td>５，７３８人
(令和４年８月末現在)</td></tr>
<tr><td>世 帯 数</td><td>２，５１２世帯</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">昭和 30 年に近隣の三村が合併し、現在の奈義町となる。平成 14 年には国・県が市町村合併を進める中、住民投票を行い、合併しないことを決定。平成 24 年には「奈義町子育て応援宣言」を行い、施策の充実に努め、令和元年に合計特殊出生率 2.95 を達成。農業を基幹産業とし、水稲、黒大豆、白ネギ、里芋などが主要作物。畜産においては「なぎビーフ」のブランド化を進め、市内には「なぎビーフ」のチラシをいたるところで目にする。観光では、那岐山をはじめとして菩提寺のイチョウなど、春夏秋冬で自然を満喫できる。また、芸術と文化についても奈義町現代美術館などの施設整備をはじめ、横仙歌舞伎の公演など町民参加での継承もうかがえる。奈義町には、日本原演習場（自衛隊）が 1193ha あることも大きな特徴の一つである。</td></tr>
<tr><td colspan="5">視察内容</td></tr>
</table>

○奈義町役場会議室で講義

・　課題と取り組み

奈義町の最大の課題は「人口減少」。対策として、定住促進のための住宅施策（住む環境）、就労の場の確保施策（働く環境）、子育て支援施策（産み育てる環境）の整備を行い、今後も現在の人口を維持することを目標としている。町長は「人口減少は、町の基礎を揺るがす深刻な問題。今を生きる私たちは未来の創造者。奈義町の明るい未来を一緒に創っていきましょう」と、住民と真の課題を共有している。全ての行政施策を人口維持に向けて行うということで「魅力を未来へ紡ぎ、暮らしやすく誰もが輝けるまち　優しさと思いやりで将来にわたり永続できるまち

づくり」を掲げている。実現に向けて、子育て家庭の経済的・精神的負担軽減、快適な保育環境の整備や家庭内教育への支援、結婚や出産・子育てと働き方への支援、特色ある教育、全世代全員活躍のまち（CCRC）の推進、観光 DMO 法人による交流促進、働く場の確保と稼ぐ力の向上、安全安心なくらしの確保、奈義町版 SDGs～未来を創る人づくり～、協働・地域連携におけるまちづくりを展開している。

・定住化に向けた住宅施策

若者の定住を促進するため、景観豊かな土地、利便性の高い土地に分譲地を整備している。町営の分譲地は完売しており、分譲地不足の対応策として、民間分譲宅地整備補助や、新しい住まいのエリア整備に向け PPP/PFI に着手する。町営賃貸住宅の整備では若者の意見を取り入れながら集合住宅や戸建住宅を整備している。

・新しい仕事のカタチ

子育てしながら空いた時間にちょっとだけ働きたい、子連れでも働きたい。自分の自由な時間を使ってちょっとだけ、みんなと一緒に仕事をしたいという働き手。常勤で雇用するほどではないけど、繁忙期に手伝ってほしい。草刈りや片付けなど、困った時に手助けしてほしいという人や事業者。この人たちを結ぶ「しごとコンビニ」事業というものが奈義町にはある。目的は以下の５つ。①子育てしながらでも就労できる仕組みや環境を整備する。②シニア世代など、時間に余裕のある人、社会の役に立ちたいと考える人達が少しでも働くことが出来るようにする。③一つの仕事をみんなでワークシェアすることで、より多くの人が地域や社会に関われるような総活躍のまちをつくる。④町の中に今ある仕事や、新しい仕事の受け皿づくりをすることで、新たな産業の創出や、働きやすい職場環境を作っていく。⑤仕事を任せる側（事業者など）の、業務の効率化を図る。対象者は子育て中の母親、なぎチャイルドホームの利用者、子どもの保護者、シニア世代など。仕事はＰＣ入力や清掃、学習支援など多岐にわたる。

・子育て支援

奈義町は平成 24 年に子育て応援宣言をし、子育て世代に広く心強さや安心感を与える効果を発揮しているという。子どもを産み、育てやすい環境をつくるうえで欠かせないのが「経済的支援」だが、奈義町では、子どものライフステージや家庭の事情に応じた、まち独自の手厚いバックアップがそろっている。切れ目なく経済支援を受けられる体制が整っていることは、奈義町で子育てをする若い世代の安心感につながっている。具体的な経済支援としては、保育料が国基準の約半額、小中学校の給食費を半額町で負担、高校生まで医療費無料、小中学校の教育教材費を無料化、おたふくかぜ等の予防接種も助成、在宅育児をする保護者に毎月 15,000 円の支援金、町独自の奨学育英金、高校生への就学支援として年額 135,000 円の支援金等がある。

〇なぎチャイルドホームを視察

「なぎチャイルドホーム」は、誰でもいつでも気軽に通え、親同士が協力しあって子どもを保育したり、地域の高齢者が預かったりすることで、「まちとのつながり」を生み出している。孤立感を抱えがちな子育て世代を精神的にサポートしている。施設内には「つどいの広場ちゅくしんぼ」や「子育てサポートスマイル」があり、一時預かり「すまいる」や、自主保育「たけの子」という仕組みがある。

・一時預かり「すまいる」について

一時預かり「すまいる」は、子育てについて支援を受けたい人（おねがい会員）と支援ができる人（おまかせ会員）とで、子育て家庭を応援していく活動。「病院に行く間、子どもを預かっ

てほしい」や「上の子の参観日に行く間だけ下の子を見てほしい」「美容院に行く間だけ見ていて欲しい」など、育児の応援を求める方やお手伝いをしたいと考える人が相談し、悩みを解決できる場となっている。

・自主保育「たけの子」について
　自主保育「たけの子」は、家庭的な雰囲気を大切にしながら、多彩な関わり合いの生まれる環境と時間を大切にする、自主的な保育の活動の場となっている。

所　　感
奈義町の視察を行って最も感じたことは、子育て支援に対しての熱意であり、本気度だった。講義でも伺ったが、奈義町の最大の課題は「人口減少」であること。そしてそれを解決して今後も現在の人口を維持することが目標であること。この課題と目標を町と町民がしっかり理解し手を取り合って良い町を作っていることがうかがえた。奈義町には多くの子育て支援策があるが、それのほとんどが議員提案だということも驚いた。議員が町民目線でしっかり提案し、町が耳を傾け政策として実現していく流れは見習うべきであると感じたし、そういった提案を今後自ら市に対して行っていかなければならない。「いろいろな自治体で、政策を実現していくためには予算がないという話が良く出るが、財調や繰越などが 0 なわけではないはずだ。そのお金を政策に使うべきだと住民に理解していただくことが大切」という担当者の話は参考になった。課題と目的を共有し、そのギャップを埋めるために施策があることを説明し、理解していただき、一体となってまちづくりを行うことが大切なのだと強く感じた。また、子育て支援で最も大切なことは「安心感」だと担当者が話されていた。産んで、育てていく、また奈義町に帰ってきたいと思ってもらう、そういった流れになるよう政策に切れ目がなく、実際に合計特殊出生率 2.95 という数値にも成果が表れている。その瞬間の目先の問題の解決だけでなく中長期目線で、この地域をどうしていきたいのか、それをしっかりと住民に伝えて理解をしてもらえるか、そういった信念を持ってぶれずに地域のために政治を行わなければならないと感じた。

(別紙)

<table>
<tr><td>視察先</td><td colspan="4">岡山県総社市</td></tr>
<tr><td>視察日時</td><td colspan="4">令和４年 11 月９日　13：30～15：30</td></tr>
<tr><td>視察項目</td><td colspan="4">障がい者雇用施策について</td></tr>
<tr><td>対応部署名</td><td colspan="4">保健福祉部福祉課</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自治体概要</td><td>面　　積</td><td>２１１．９㎢</td><td>人　　口</td><td>６９，６９６人
(令和４年９月末現在)</td></tr>
<tr><td>世 帯 数</td><td>２９，２５０世帯</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">平成 17 年に１市２村が合併し、今の総社市となった。産業別人口では第１次産業が 4.6%に対し、第３次産業が 60.2%という特徴がある。全国屈指の福祉先駆都市を目指すとして注目が集まる総社市だが、吉備文化発祥の地として観光地としても見ごたえのある歴史的に価値の高い史跡がある。</td></tr>
</table>

視察内容

〇総社市役所　第１委員会室で講義

・障がい者千五百人雇用を目指すまで

平成 23 年に「障がい者千人雇用」を開始。当時 3,152 人の障がい者が総社市にはいた。そのうち 18 歳～60 歳は約 1,200 人。その中で働いている人は 180 人だった。残りの 1,020 人は障がいを隠して家で暮らしているということだった。その 1000 人を社会に呼び込んで働いてもらう、参加してもらうというのが発端。その後「就労支援ルーム」「障がい者千人雇用推進条例」「障がい者千人雇用センター」等、千人雇用に向けての整備をすすめていく。スタートから３年で 721 人を雇用。平成 29 年には就労者 1000 人を達成し、同年９月に「障がい者千五百人雇用」事業として再スタート。

・障がい者千五百人雇用事業の体制

障がい者が就労を通して、生きがいを感じながら安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することを目的としている。障がい者千五百人雇用センターは中ポツと同等の機能を有している。センターの職員は、登録者に対してマッチングから生活までマンツーマンでサポートを行うとともに、企業など就労へのアフターケアも担当する。ハローワーク総社とは協定を結び、建物の２階に「就労支援ルーム」を設置している。「福祉から就労」に向けてワンストップで付き添い型の綿密な支援を実施している。総社市が行う取り組みとしては、障がい者向けの就職面接会の実施、広報活動による障がい者雇用のアピール、一般就労への移行を図る取組等を展開している。

・障がい者千五百人雇用の展望

障がい者を 1500 人雇用するためには、総社市外の圏域への波及、生活の質の向上、課題やニーズに対して適切な支援が必要となる。総社市はライフステージの一貫した支援を目指し、障がい者一人ひとりが自立し、安心して地域で暮らせる社会を実現しようとしている。

〇片岡聡一市長と面会

東洋経済 ONLINE の記事を事前に読ませていただいていたが、実際にお会いして直接話をうかがい、市長の熱意を直接感じることができた。

〇障がい者雇用事業所見学

それぞれの得意不得意があるので、それに合わせて仕事を選び実施されていた。また、体調が急に悪くなることもありしっかり休むスペースも確保されていた。それぞれのペースで働くことが大切だということも施設の方が言われていた。

※ 事業所で作られているクッキー

所　　感
総社市では実際に障がい者雇用事業を先頭に立って引っ張ってこられた市長にお会いできて直接お話をきけたことが本当に貴重な経験だった。もちろん、制度や仕組みは大切だが、地域の未来をどう考えるか、そして自分の信念をぶらさずに貫き、結果を出すというリーダーシップが必要なのだと強く感じた。また、片岡市長は面会時に、議会との関係についても触れられた。障がい者雇用について、議会は市長の思いを理解し、共にその青写真を抱いたのではないかと思う。市長と議会は両輪でまちを良くしていかなければならない。そのためには個人の知見をもっと高めていかなければならない。また、市長は総社市として、これから先誰が市長をやっても大丈夫なように制度を整えたいとも言われている。一つひとつの制度に対して、市も議会も真剣に取り組んでいることが伺える。今あるものを良しとせずに、もっと良くならないか、コスパはいいのかなどブラッシュアップしていけるように日々努めていかなければならないと感じた。今回の視察では、HP や資料で文面やイラストを見るだけでは伝わらない本気度と熱意を体験できた。机上の空論ではなく、現場に足を運び、自分の目で見て、聞いて、課題を明らかにしたうえで解決策を考えていくべきだと感じた。そういった点を特に留意しながら、今後の議会活動にしっかり反映させていきたい。